

豊友会だより第十二回俳壇へのご応募ありがとうございました。投句いただいた全作品を掲載します。  
次回、第十三回俳壇へのご応募をお待ちしております。 豊友会だより編集係

第十二回豊友会俳壇(豊友会だより第71号)

兼題－1：雪

投稿者	作 品
赤塚 慎一郎	雪の舞ひコロナに帳開かざる
浅見 茂	足あとはどこからどこへ雪の朝
阿部 皓一	雪催ひ八十路の母にメールする
石井 孝夫	手袋に雪の結晶息とめる
上田 正隆	ゆきがみなり 響き霞も 屋根を打ち
小俣 祥忠	降る雪や転調三味舞い踊る
海外 涼	雪合戦同じ娘ばかり攻められて
川上 千里	捨て切れぬ小さき雪沓納屋の隅
川畑 耕祐	故郷に思いを馳せる雪の朝
黒山 茂英	銀花のせ末こぞり立つ庭木かな
小泉 隆広	トンネルを出れば大雪越の国
斎藤 光	雪しまく言葉少なに別れけり
櫻井 暎子	はらはらと落つる雪片春恋し
重田 康之	雪積り明るくなりし田舎道
武川 順子	空見上げ雪雲なれど気配なし
土田 悦男	雪わたり登校の子等影長く
内藤 俊彦	雪溶けて凍って光る散歩道
中村 隆晴	父母眠る墓前に清き雪が舞ふ
本藤 聡子	ひとひらの結晶積りて雪景色
御蘭生 隆雄	七回忌母を迎える雪あかり
屋代 順治郎	一夜明け玄関前の雪景色
矢倉 弘泰	雪散らつく中を下校の子らの列
矢治 宏之	雪降るや困る人ありでも楽し
吉武 繁廣	放課後や大中小の雪まろげ

兼題－2：囀

投稿者	作 品
赤塚 慎一郎	囀や梢さや鳴る空の下
浅見 茂	聞きなれぬ囀聞こえ旅の空
阿部 皓一	囀にけふも元気とさへづえり
石井 孝夫	園児らとさえずり合戦おれすずめ
上田 正隆	囀りが目覚まし代わり春の朝
小俣 祥忠	囀りや言の葉載せて四十雀
海外 涼	止まる木に好みあるらし囀れる
川上 千里	囀や隣家の庭へ我が庭へ
川畑 耕祐	街路樹の鳥の囀かしましく
黒山 茂英	朝な夕なさへづりしきり先師句碑
小泉 隆広	囀のしばらく過ぎて高くなり
斎藤 光	囀の広がる先の空深し
櫻井 暎子	朝まだき鳥のさえずり夢心地
重田 康之	囀りの騒がしき中森歩く
武川 順子	静寂に弾ける囀目を覚ます
内藤 俊彦	囀りや朝日の中の墓参り
中村 隆晴	山あひに熱き囀り響きをり
本藤 聡子	囀に真似て「ホケキヨ」の返しあり
御蘭生 隆雄	溜息をゆっくり集める囀えり
屋代 順治郎	囀や小さき肩にランドセル
矢倉 弘泰	囀に包まれ朝の缶コーヒー
矢治 宏之	囀のひとかたまりや木々の上
吉武 繁廣	囀や陪塚の下溢れをり

自由題:「冬」「春」の季題より

投稿者	作 品
赤塚 慎一郎	細き身や声はソプラノ小正月
浅見 茂	寒桜遠まはりする散歩かな
阿部 皓一	冬銀河メーテルとともに宙の旅
石井 孝夫	シンシンシン闇の底から雪ゆきユキ
上田 正隆	シーラス(絹雲)よ雨告げる雲高き空に
小俣 祥忠	散りぬるもいろは紅葉香 千の風
海外 涼	日影から出られなくなり雪目かな
川上 千里	深川のどんと盛りたる浅蜷飯
川畑 耕祐	下萌えや庭の草の芽生き生きと
黒山 茂英	蝶々の先へ先へと試歩の径
小泉 隆広	道端に猫柳置き買はれゆく
斎藤 光	忘れ物思ひ出せず小春かな
櫻井 暎子	春を待つカーテン越しの空の色
重田 康之	春めくや本を片手にうとうと
武川 順子	子育ての過ぎ去りし今日向ぼこ
土田 悦男	赤城風体斜めにやり過ぎし
内藤 俊彦	冬麗や布団干しつつ孫を待つ
中村 隆晴	麦踏みや向かひに赤城弾む声
本藤 聡子	叶うなら太陽パネルで日向ぼこ
御蘭生 隆雄	まぐろ船一生を終える佇んで
矢倉 弘泰	空っ風吹き去り残る星の数
矢治 宏之	温めし葛湯に生姜香り立ち
屋代 順治郎	朝日射し鳥舞ひ降りて春立ちぬ
吉武 繁廣	漆喰の阿修羅微笑む春障子